

教科教育の基盤となる道徳教育

モラロジー道徳教育財団 学校教育センター
元十九里町立豊海小学校 教諭

長澤 勇哉

一、人格形成の根幹となる道徳教育

私は教員生活の中で、道徳教育の重要性を強く実感してきた。

素直な児童は、まさにスポーツのごとく様々なことを吸収していく。

道徳教育は人格形成の根幹に關わるものである。自己と対話をしながら物事の本質を考える

力や主体性をもち、誠実に物事に向き合う力などは「豊かな心」、「健やかな体」、「確かな学力」の育成の基盤となつていると考える。

小学校学習指導要領には「学

校における道徳教育は、特別の教科である道徳の時間（以下、「道徳科」という）を要として学校

の教育活動全体を通じて行うも

のであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達の段階を考慮して、適切な指導を行わなければならぬ」と述べられている。

教師はこれらのこと念頭に置いて教育実践に当たることが大切である。

二、道徳的実践力の育成と教科指導

①相手の話に耳を傾ける力

力を入れて指導してきた。
①相手の話に耳を傾ける力②主体的な問題解決力③コミュニケーション力である。

私がこれまでに担任した学級を例として挙げる。

きるようになった児童は、成功体験から「次回も話を聞こう」という意欲をもつて行動できるようになつた。その他のことにについても、一つ一つの行動的理由を考えるように促した。

②主体的な問題解決力

話を聞くことが苦手な児童が多い学級の場合には、「しつかりと話を聞くことで、今の自分よりも物事の捉え方や考え方の幅を広げることができ」「幅が広がることで、自分の行動が変わり、よりよい人生の構築につながる」ということを話し、なぜ話を聞くことが大切なのかを納得できるように働きかけた。話に耳を傾けることで、考えを広げたり深めたりすることがで

きるようになつた児童は、成功体験から「次回も話を聞こう」という意欲をもつて行動できるようになつた。その他のことにについても、一つ一つの行動的理由を考えるように促した。

その後、児童は自らめあてをもち、課題を解決することができるようになつた。

③ コミュニケーション力



「自力解決」の支援

コミュニケーション力を高めるには、対話をする機会を増やし、自分の考えをアウトプットすることを習慣化した。まずは児童が発言をしたという行動 자체を称賛し、段階的に発言の内容についてフィードバックし、表現力を高めるように指導した。

これら三つの道徳的実践力を基盤として、教科指導の充実を図つた一例として、算数科の授業実践について紹介する。

「課題把握や見通し」の場面では、教師や児童の発言を正確に聞き取り、その授業のねらい

や問題を適切に捉えて問題解決に向かうことができた。

「自立解決」の場面では、これまでの問題解決の経験や既習事項を活用しながら、主体的に問題を解き、自分の考え方を筋道立ててノートに記述することができた。

「比較検討」の場面では、学級全体で活発にコミュニケーションを図り、自分の考えを分かれたり、友達の意

三、算数科の実践

見を聞いたりしながら、よりよい解決方法を見出すことができた。

「まとめ」の場面では、問題解決への取り組みを振り返り、何をどのように学んだかをメタ認知するとともに、自分ができることになったことを自覚し、次授業への意欲化を図ることができた。



「振り返り」の様子

四、終わりに

このように道徳的実践力が基盤となり、子どもたちが主体となつた授業を実現することができた。授業の中で、教師と児童をつなぐ架け橋となるのが信頼関係と両者の道徳性であると述べてきたが、もう一つの架け橋となるのが「教材」である。教師が効果的に教材を活用しながら授業を進めることにより、児童がそれぞれの教科の観点から物事を本質的に捉えたり考えたりする力を育成することができる。

教師は、道徳的実践力を基盤として、児童と教師と教材の三つの関わりを念頭に置いて授業実践を行うことが肝要である。